

Title	プロダクト・ポートフォリオ計画のためのデシジョン・サポート・システムの開発
Sub Title	
Author	木根淵純(Kinebuchi, Jiyun) 高橋吉之助
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第262号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0262">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0262</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 木根 潤 純  
所属ゼミナール 矢 作 恒 雄 研

主査 高 橋 吉之助  
副査 柳 原 一 夫  
矢 作 恒 雄

## プロダクトポートフォリオ計画のための デジジョンサポートシステムの開発

企業の多角化を扱った研究は従来より数多くなされているが一般に広く知られたものとして、ボストン・コンサルティング・グループによる、プロダクト・ポートフォリオ・マトリックス（以下P.P.M）の概念がある。P.P.M に対しては既に数多くの適切な批判がなされてきたが、実務界において求められているものは、単なるP.P.M.の批判ではなく、P.P.M. をより実務に役立つように改善することであると思われる。

P.P.M. の限界として、以下の3つが上げられる。(1)実際行動の為の指針としての具体性の欠如 (2)2次元モデルの限界 (3)市場定義の問題。これらの問題の解決方法として以下の様な方法が考えられる。P.P.M. と実際行動とのギャップを埋めるデジジョン・サポート・システム、すなわち、一定のキャッシュフローの制限のもとで、利益を最大化する様な事業単位間の最適な資金配分案を決定でき、さらに、システムの処理機能中において、経験曲線効果や市場の成長性が、キャッシュフローや利益にどのような関係があるのかを明確に関数として表現したシステムを開発することにより前述の3つの限界は相当程度解決されると思われる。そこで、この様なシステムの開発に取り組んだ。

結果として完成したシステムは、P.P.M. の概念と実際行動を直接に結び付けるものとはならなかったが、P.P.M. の概念を実際行動に一步近づけることができた。